

第3章 計画の目標

3-1 計画が目指す環境像

前計画では、以下の「将来の環境像」を目指し、環境面からのまちづくりを進めることと
しています。この前計画で示されている「将来の環境像」は、現在の課題や将来を見据えて
も充分に対応できるものであることから、本計画においても継承することとします。

将来の環境像

緑・水・生きもの・人
・・・わたしたちが心豊かにくらすまち小金井

目指す将来の環境像は、次のことを表しています。

●緑・水・生きもの

⇒小金井の環境を構成する基本要素で、心豊かに暮らす基盤であり、生物多様性や自然循環を重視して環境保全の考え方の方向性を表しています。

●人

⇒人は、緑・水・生きものから食料や木材等の供給、気温や湿度の調節、公園や崖線などで自然にふれることによる文化的な恵みを楽しんでいることを自覚し、それらを保全・再生・創造していくという考え方を示しています。

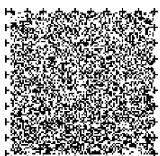
●わたしたちが

⇒環境を保全・再生・創造していく方策として、環境教育・学習を通じて市・市民・事業者・教育機関（大学等）・市民団体等の各主体が絆を深めて、連携・協働することによって実行していくという気持ちを示しています。

●心豊かにくらすまち

⇒環境からの恵みを受け、環境を育むことによって、物質の豊かさにとどまらず、心の豊かさを大切にし、自然とふれあえるとともに、省エネルギーや再生可能エネルギー*^{3.1}の活用を通じて、低炭素で循環型のライフスタイルを目指し、心豊かに暮らしたいという願いが実現できるまちにしていこうという決意を示しています。

*3.1…太陽光発電や風力発電などを指す言葉として、「新エネルギー」、「自然エネルギー」、「クリーンエネルギー」などがありますが、本計画では統一して「再生可能エネルギー」と表すこととします。



3-2 取組の見直しの視点

第2章で評価・検討した前計画の進行状況と課題を踏まえ、本計画での取組の体系や具体的な取組を見直すため、相互に関わり合いを持つ次の「4つの見直しの視点」と、それらの推進に向けて様々な主体の協働を目指した「2つの横断的な見直しの視点」を設定します。

● 4つの見直しの視点

視点1：省エネルギー及び再生可能エネルギー活用の視点を強化します

環境教育・学習を通じて、市・市民・事業者・教育機関・環境団体等が地球温暖化対策や省エネルギー及び再生可能エネルギー活用の視点で生活・事業・行動を見直す意識を向上させるための事業・施策などを強化します。

視点2：低炭素まちづくりの視点を強化します

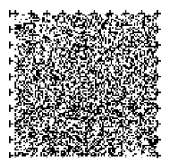
都市整備を行う事業・施策では、低炭素の視点に重点を置き、地場生産・消費による農地の保全、ヒートアイランド対策を強化し、低炭素のまちづくりを目指します。

視点3：市が有する自然環境を生物多様性の視点で統合します

生物多様性の視点から、生きものの生息場所を保全・再生・創出する事業・施策・行動を統合して強化し、自然と共生するまちづくりを目指します。

視点4：循環型の都市システムの視点で公害対策やごみ対策を方向付けます

循環型社会の視点からごみをもとから増やさない発生抑制、使えるものは何度でも使うリユースを促進し、資源になるものは捨てずに再生して利用する資源循環システムを構築するための事業・施策などを強化し、質の高い都市環境を創出します。



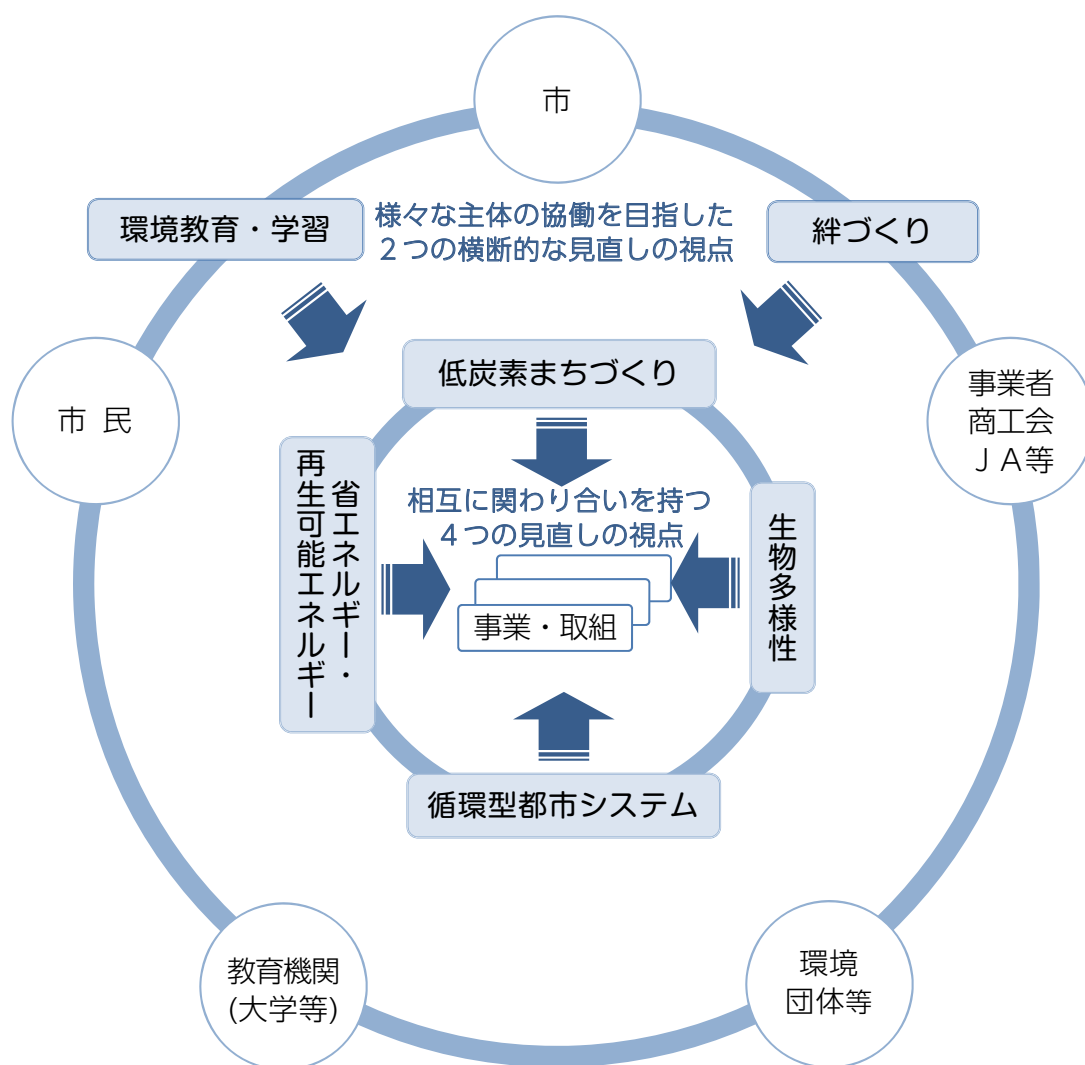
● 2つの横断的な見直しの視点

横断的な視点1：環境教育・学習を強化します

個別基本施策に基づく具体的な取組の重要性の理解や協力を深め、成果が向上するように環境教育・学習を強化し、将来の環境像に向かう行動を推進します。

横断的な視点2：多角的な絆づくりを図ります

市・市民・事業者・教育機関・環境団体等が、様々な事業・施策等を実行するために多角的な絆づくりを図っていきます。



見直しの視点と取組・主体との関係

